

## 学生たちが描くがん征圧の願い

## がん征圧ポスターデザインコンテスト

### 最優秀に多摩美術大の細田純平さん

今年度のがん征圧ポスターが決まった。日本対がん協会が初の試みとして学生たちに呼びかけて「第1回がん征圧ポスターデザインコンテスト」を実施。最優秀作に多摩美術大学大学院生の細田純平さんの作品が選ばれた。がん征圧月間の9月に全国の自治体や医療・検診機関などに掲示される。

細田さんの作品は2枚一組。1枚は、びっしりと並んだ小さな「○」を正常細胞に見立て、その中央に2cmほどの金平糖のような「がん細胞」をあしらって、「今、みつけてください」と呼びかけている（写真左）。やや近寄らないと分かりづらい点がミソだ。

もう一枚は、その「がん細胞」を遠くからでも分かるように大きく描いた。そして「すぐ、みつかった」（写真右）。

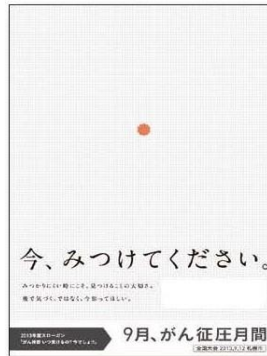
この2枚を並べることで、

自覚症状が出ない小さなうちに検診を受けてがんを見つけよう、というアピールが伝わるように工夫されている。

審査委員会では、その効果的なあしらい方が絶賛され、最優秀作に選ぶことに異論は出なかった。

2枚一組ながら、自治体や保健所、検診機関などではスペースが制約される可能性もあるため、1枚を掲示する場合は、「今、みつけてください」と訴えているほうを勧めることにしている。

がん征圧月間ポスターはこれまで、業者を通じてデザイナーに依頼し、複数を描いてもらって日本対がん協会事務局と詰めて決めてきた。若者への啓発、とい



う観点から、大学生世代にがんのことを考えてもらう一環として、コンテストを実施することを決め今春、作品を公募。約20点の作品が寄せられた。審査委員会を6月11日に開催。優秀賞には武蔵野美術大学の淵沢ゆなさん、青山学院大学の柳里沙さん、神奈川大学の太田美咲さんの作品が選ばれた（3面に掲載）。

副賞として最優秀賞には10万円の商品券が、優秀

賞には記念品がそれぞれ贈られた。

審査委員は、天野祐吉（コラムニスト）、中川恵一（東京大学医学部附属病院）、中平純一（厚生労働省健康局がん対策・健康増進課）、廣村正彰（グラフィックデザイナー）、本田亮（クリエイティブディレクター）、箱島信一（日本対がん協会理事長＝当時の各氏）。

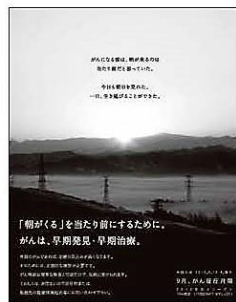
第2回目のコンテストの日程は近く公表する予定。

## 若い世代が「がん」を考えるきっかけに ——がん征圧ポスターデザインコンテスト——

若い世代にがんのことを考えるきっかけにしておくと、日本対がん協会が今年初めて開催した「がん征圧ポスターデザインコンテスト」には、工夫を凝らした作品が応募された。

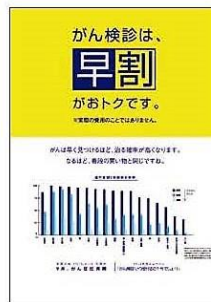
何も症状のないうちに受けるのが検診——最優秀賞の細田純平さん（多摩美術大・院）の作品からは、がん検診のポイントがストレートに伝わってくる。

優秀賞の3作も、それぞれによく考えられている。柳里沙さん（青山学院大）の作品は、当たり前のように、何気なく迎える毎日が、実は当たり前ではない



のでは、と思わせるコピーが印象的だ。

淵沢ゆなさん（武蔵野美術大）、太田美咲さん（神奈川大）はともに、がんの治療成績のデータを効果的にあしらい、今年度のがん征圧スローガン「がん検診



いつ受けるの？ 今でしょ!!」と相まって、その「検診」の大切さがひと目で分かるデザインになっている。

若い世代へのがん啓発に力を入れる日本対がん協会では、中高生へのがん教



育、朝日学生新聞社と一緒に小学生とその親を対象に開いているたばこのセミナーとともに、このコンテストを大学生ががん啓発を考える場として発展させたい考えだ。